

テーマに込めた思い

報告者：副会長 伊東 和男

先月号から始まった「名古屋大会2024への道」、第2回です。今回はメインテーマ

「破壊、創造、継承。前例踏襲を打ち破れ。」

VUCAの時代に公認会計士が取り組むべき課題

について、私がお話しさせていただきます。

2024年9月に東海会主催で全国研究大会を開催することが決まり、準備や運営に携わることは質量ともに大変な業務ですが、10数年に一度しか巡ってこないことですので、いい機会に立ち会うことができると前向きに捉えて楽しみたいと思っています。

その中で、全国研究大会のメインテーマは本部や広告代理店などが創るのではなく、研究大会を主催する地域会で決めているということ今回始めて知りました。

名古屋大会2008と2024のメインテーマ

前回の名古屋大会（2008年）のメインテーマは『夢！魅力ある公認会計士 - 私たちはパブリック・インタレストに貢献します-』でした。『パブリック・インタレストに貢献する』とは日本公認会計士協会の前のタグラインであり、時代がリーマンショック前で前向きな印象があります。

名古屋大会2024では、準備委員会のメンバーでアイデアを出し合い、私が提案したものがメインテーマとして採用されました。

研究大会のメインテーマは全国の公認会計士に向けて発表され永遠に記録に残るものであり、公認会計士になって25年を過ぎましたが、墓場まで持っていける記憶に残る出来事になりそうです。すでに自分の手を離れ関係者全員で共有するものとなりましたが、嬉しいような、恥ずかしいような、親が子を見守るような気持ちでおります。

VUCAの時代

サブタイトルにある『VUCAの時代』とは、以下の4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変化する予測困難な状況を意味します。

- V Volatility (変動性)
- U Uncertainty (不確実性)
- C Complexity (複雑性)
- A Ambiguity (曖昧性)

「VUCA（先行きが不透明で将来予測が困難）の時代」と言われる現代は、数値の正確性や本質の見極めが困難となり、判断に影響を与える要素の多様

性が増しており、公認会計士に対する社会のニーズが深化・多様化しています。そのような中、思考停止に陥り過去のやり方をそのまま前例踏襲するだけでは、社会の期待に応えることができず公認会計士は社会から取り残される可能性があります。

破壊、創造、継承。

『破壊』とは、いったんゼロベースにして、変化し続ける環境に合わない古いやり方や考えを取りやめ、新しい発想を生み出すきっかけを作ることを行います。

『創造』とは、変化する環境に合った新たな価値を作り出すことを行います。

『継承』とは、古（いにしえ）から続く諸先輩の遺産や伝統で今も価値を持つものは続けていくことを行います。

この3つのプロセスを継続し環境の変化に適応し続けることが、VUCAの時代に生きる公認会計士に必要であると考えました。そして、クライアントの破壊、創造、継承のプロセスを支えていくことが、公共の利益に資することに繋がると考えます。

そして、東海地区といえば織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3英傑です。

400年以上前の戦国時代は先行きが不透明で将来予測が困難な、まさしくVUCAの時代だったといえます。戦国時代において、破壊、創造、継承のプロセスで環境に適応し、平和な時代をもたらした体現者が東海地区にはいたわけです。

破壊＝織田信長、創造＝豊臣秀吉、継承＝徳川家康、と3つのワードを3英傑となぞらえ、東海地区のイメージとも合致したテーマになりました。

最後に

あとは東海地区で行われる全国研究大会が素晴らしい大会となるよう、当日まで努力していきたいと思えます。

今回は、研究大会特集ページとしてお送りする予定です。

